

県外派遣審判員報告書

作成日 30年3月13日

1P

大会名	第44回全日本クラブバスケットボール選手権大会		会場	佐賀県総合体育館・諸富体育館・神崎中央公園体育館	
期間	2018.3.10~12		報告者	坂元 孝浩	
スケジュール					
期日	内容		場所		
3月9日(金)	15:00~	審判研修会	佐賀県総合体育館		
3月9日(金)	18:00~	審判会議	佐賀県総合体育館		
3月10日(土)	9:00~	大会1日目	佐賀県総合体育館・諸富体育館・神崎中央公園体育館		
3月11日(日)	9:00~	大会2日目	佐賀県総合体育館・諸富体育館		
3月12日(月)	9:00~	大会最終日	佐賀県総合体育館		
レクチャー・審判会議の内容					
<p>○審判研修会(映像+分解練習)モデルチームあり。 ※講師:日本クラブ連本部審判員 3POの映像を用いて、実際に分解練習を行った。モデルチームあり。</p> <p>①ローテーション。T・Cのチェックイン・チェックアウトの意識。Lのアウトサイドインからクローズダウン、トリガーを確認してからのローテーションスタート。セットアップポジションでのローテーション完了まで。(45°)3人のトリガーの共通理解。</p> <p>②センターサイドの45°でスクリーンプレークイックショットシチュエーション。Cサイドでスクリーンプレーが起こる場面でのローテーション、2vs3シチュエーションへのフラッシュヘルプ。Tのフットアップの意識。T・Lでのアングルの協力。</p> <p>③オールコートでのLのフラッシュヘルプ。</p> <p>○審判会議。役員紹介、開会、挨拶、割当発表、注意事項、事務連絡。研修会連絡。</p>					
実技	割り当て	ROYALS(関東4位:群馬)ーSWOOPS(東海1位:岐阜)	U2	丸山大(次年度S級:新潟)/谷隆正(次年度A級:高知)	
<p>○ゲーム前(プレカンファレンス) ガイドラインの確認(映像確認しながら)。Hand-check/Post play/Rebound/Screens/Block-Charge/UF/DQ/Flopping/Fake/Double foul/AOS。 3POメカニクス。プライマリ/カバレッジ。レフェリーザディフェンス/デッドボールオフィシエーティング。プライマリエリア/プライマリアングル。チェックイン/チェックアウト。ローテーション(トリガー)。スイッチサイド。フラッシュヘルプ。</p> <p>○ゲームの実際 ゲームは外国選手2名を含むSWOOPSが序盤から優勢に立つゲームであった。 ヴァイオレーション含むお互いのエリアでの判定で互いのチームの対応が違う点をクルーで共通認識し、ネクストワーニング等お互いに理解した状態でレフリングした。 自分のプライマリの確認、チェックイン・チェックアウトなどメカニクスなど意識しながらレフリングすることができた。 ゲームではクルーに助けられ初めての全国クラブ選手権でのゲームを終えた。</p> <p>○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任:漆間 大吾 氏(東京都:S級) ベンチでの反応に対するポイントの説明。ファールコールの後ベンチが立ち上がる場面ではまずベンチパーソナルを座らせる。(役割の確認:RFG)エンドラインでの多様な場面でのアングルの取り方の工夫についてレクチャー。 オールコートでの対応について意見交換。 ST-TOの場面での緊急事態への対応についてレクチャー。 プレゼンテーションについて。</p> <p>※映像・ファールログを使用。</p>					
全体を通しての感想					
2P目に記入。					

県外派遣審判員報告書

2P

作成日 30年3月13日

大会名	第44回全日本クラブバスケットボール選手権大会	会場	佐賀県総合体育館・諸富体育館・神崎中央公園体育館
期間	2018.3.10～12	報告者	坂元 孝浩
スケジュール			
期日		内容	場所
3月9日(金)	15:00～	審判研修会	佐賀県総合体育館
3月9日(金)	18:00～	審判会議	佐賀県総合体育館
3月10日(土)	9:00～	大会1日目	佐賀県総合体育館・諸富体育館・神崎中央公園体育館
3月11日(日)	9:00～	大会2日目	佐賀県総合体育館・諸富体育館
3月12日(月)	9:00～	大会最終日	佐賀県総合体育館
レクチャー・審判会議の内容			

1P目記載

実技 割り当て VEAT(東海3位:三重)―QUEEN BEE(関東1位:千葉) U1 梅田香(本部A級:福井)/川村貴昭(研修生:愛媛)

○ゲーム前(プレカンファレンス)

3POメカニクスの確認。ガイドライン。前日までのチームの情報の擦り合わせ。チームの特徴、キーマン。クルーでの共通理解(ローテーションのトリガー、シグナル、ラストボーナス、アイコンタクト)

○ゲームの実際

ゲームの入りとして、思い切りよくアングルが確認できたものを、3人で笛にすることが出来ました。ローテーションについても前日までの反省を活かしてノッキングする事なくローテーションを仕掛けていくことが出来ました。しかし、ローテーションの最中の3Qの場面等でプライマリが曖昧になり判定をする場面で笛が入らないことがありました。また、ゲームが一方的になってきた際に勝っているチームのイリーガルな部分を探そうとしてチェックイン・チェックアウトが出来なくなることがあり3POの利点を活かさないことがありました。3人でもう一度基準の確認とプレゲームカンファレンス通りレフリングを行う事を共通認識し直し、特に大きなトラブルもなく最後までゲームを終えることが出来ました。

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任:久保 裕紀 氏(東京都:S級)

3POのメカやアングルを活かしゲームの入りは3名とも良い判定に繋がられた。途中でボールサイドの判定が弱くなる場面が何度かあった。(特にB級2人でT・Lの場面)プライマリにもっとこだわりを持って欲しい。アングルの良い判定を増やして欲しい。プレゼンテーションをもっと工夫すると良い。シグナルを出している場面で2人しか気付いていない場面等、3人で確認できるようになるともっと確認ミスがなくなる。それぞれの立場での確認する気付きは良かった。

全体を通しての感想

クラブ連の全国大会ということで、チームも審判もとてもレベルの高いものであった。全体研修会のレクチャーもベーシックな部分がとても重要であることを再認識した。研修会を行ってから大会に入るという経験もとても貴重なもので、とてもスムーズに大会初日を迎えられた。またクルーで協力することで、フィジカル的にもメンタル的にもフラットな状態でレフリングをすることが出来た。メカニクスについても実戦することができ良い経験になった。基本的な判定力やルールの理解、プレイの理解を深めていくことがとても重要であると改めて感じた。また、全国の上級審判員のレフリングを直接見る事が出来、MTGでも新鮮な表現や理解の参考になる部分をたくさん勉強することが出来た。この経験を県内に持ち帰り、県内審判員と協力して研鑽していきたい。研修生としてこのような貴重な経験をさせていただいた九州クラブバスケットボール連盟会長はじめ九州クラブバスケットボール連盟審判長、鹿児島県審判委員会審判長、県内審判員に感謝し、第44回全日本クラブバスケットボール選手権大会の報告といたします。